

平成 16 年度

## コンピュータ・リテラシー演習

### テキスト 8

#### Apple Works Draw & Paint

平成 16 年度後期、火曜日、3 講目

教官 浅川

asakawa@asa.hokkyodai.ac.jp

## 目次

第 8 講 アップルワークスの使用 2	3
作画機能	3
1. ドロー機能	3
1-1. 起動	3
1-2. 図形の作画	4
1-3. 図形の変形	5
1-4. 図形の消去	5
1-5. 図形の前後関係調整	5
1-6. 図形の透明化	6
1-7. 図形の塗りつぶし	7
1-8. ラインのスタイル	7
1-9. 文字入力	8
1-10. 配置メニュー	8
2. ペイント機能	9
2-1. 起動	9
2-2. ペイントのツール	10
2-2-1. ツールアイコン	10
2-2-2. 作画ツール	10
2-2-3. 選択ツール	10
2-2-4. 塗りつぶしツール	10
2-2-5. 消しゴムツール	10
2-3. オプションメニュー	11
2-4. 効果メニュー	11
2-5. ペイントの特徴	11

## 第8講 アップルワークスの使用 2

### 作画機能

アップルワークスには2種類の作画機能があります。それらは**ドロー**と**ペイント**と呼ばれる機能です。これらのは次のような違いがあります。

**ドロー**では、図形は直線や曲線などから構成されたオブジェクトとして記憶されています。従って、後からその図形を拡大、縮小、変形をしたときには新たに書き直されて表示されるため、表示が荒くなることはありません。ドローは主として設計図を作ったり、作図をするような時に使います。

**ペイント**でかかれた絵は、画面上のドットの集合として記憶されています。従って、後からその絵を拡大したときには、ドットが荒く表示されてしまいます。ペイントはフリーハンドで絵を描くという様な時に使います。

では、アップルワークスの2種類の作画機能、ドローとペイントを体験しましょう。

### 1. ドロー機能

#### 1-1. 起動

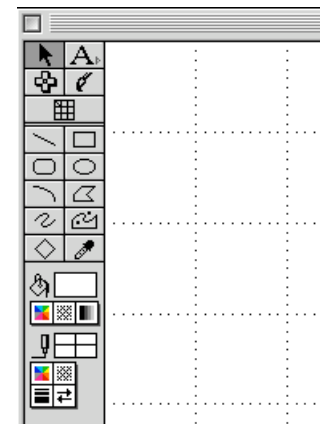
アップルワークスを起動し、新規書類のポップアップウィンドウでドローを選択します。アップルワークスが起動している場合は、「**ファイル**」メニューから「**新規**」を選び、ドローを選択しま



す。

グリッド(ウィンドウの縦、横の点線を持つ、次のようなドロー画面が現れます。

その右側には部品や色、線の太さなどをきめる**ツール**が表示されています。このツールの形等はMacの他のグラフィクスソフトでも共通しています。最初は図のように「矢印」ボタンが黒くなって選択されています。



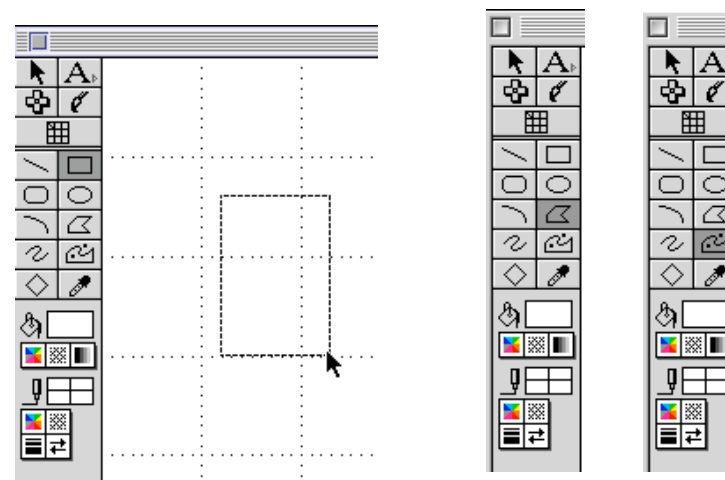
#### 1-2. 図形の作画

ドローでは、直線、四角、隅の丸い四角、楕円・円、円弧、多角形、フリーハンドラインは同一の操作で作画できます。一例として、四角を書いてみます。まず左に示されているツールの「四角」ボタンをクリックして、選択します。

ドロー画面にカーソルを持っていくとカーソルが「+」マークに変わっています。

どこかでマウスをクリックし、そのままドラッグします。点線で四角が描かれますので、適当なところでマウスをボタンをはなします。四角が作画されました。

この様に、ツールから図形を選択した後、ドラッグにより図形を書くことができます。



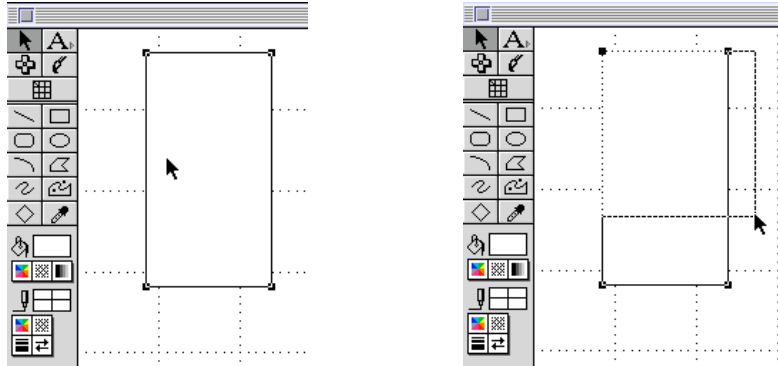
へこみのある多角形、ベジェ曲線等は、まずツールの該当するマークをクリックして選択してから、クリックしながら、線を伸ばしていき、止めるときには、ダブルクリックします。

ベジェ曲線の作画には、多少の練習が必要です。

### 1-3. 図形の変形

図形内をクリックすると4隅に黒四角のドラッグポイントが表示され、その図形が選択されます。

ドラッグポイントをドラッグすることにより、変形できます。



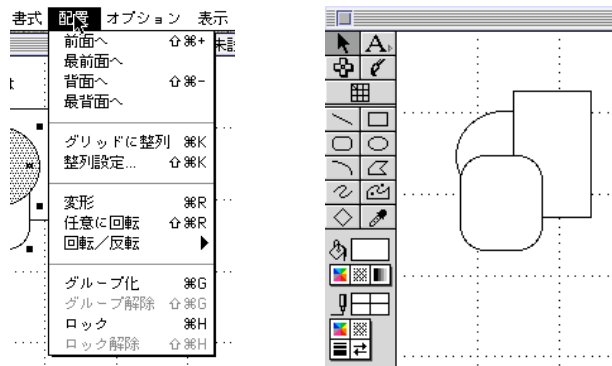
### 1-4. 図形の消去

図形を消去するときは図形をクリックして選択した状態で「delete キー」を押します。

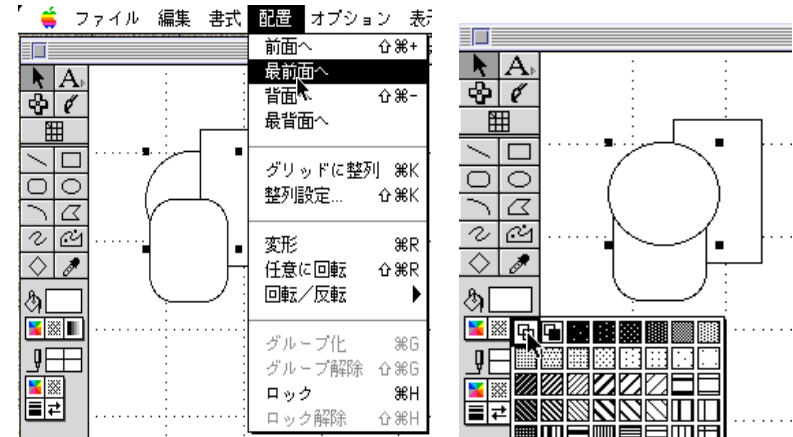
### 1-5. 図形の前後関係調整

何個か図形が書けたと思います。図形を書くと作られた順に、より前面に図形が配置されます。

図形の一つをドラッグして別の図形に重ねて下さい。図形が重なると下の図形は見えなくなっています。下の図形を一番表面に持ってくるためには、目的の図形を選択した後、メニューバーの「配置」メニューから「最前面へ」を選択します。図形の隠れた部分が表示されます。この状態でこの図形は最前面にあります。



この図の場合は、隠れていた円を最前面に持ってきました。



メニューバーの「配置」メニューには、選択した図形を前後面に移動するメニューがあることに気がついたことと思います。それらを使って見え方、重なり方を工夫することができます。

### 1-6. 図形の透明化

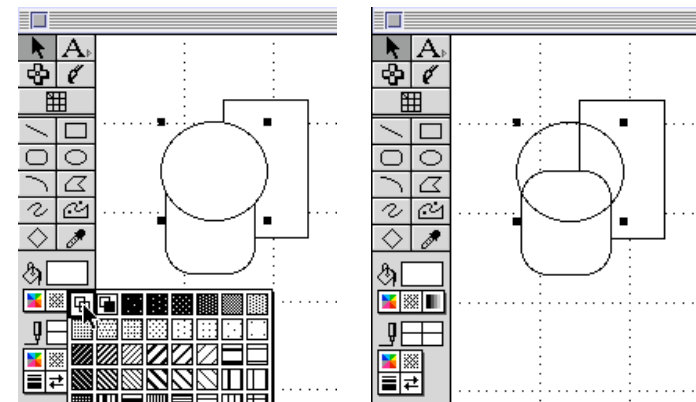
前項のように図形を重ねると下の図形が隠れて見えなくなるのは、その図形が白い色で塗りつぶされているためです。これを透明化する方法があり、すると下の図形が見えてきます。

ドロー画面の左側のペンキ缶マークの下に色とパターンとグラディエーションのボタンが並んでいます。これらは図形を塗りつぶすときに使いますが、ここでは、透明化の指定に使います。

透明化したい図形を選び、この中の塗りパターンを開け、その左上の透明化ボタンを押します。

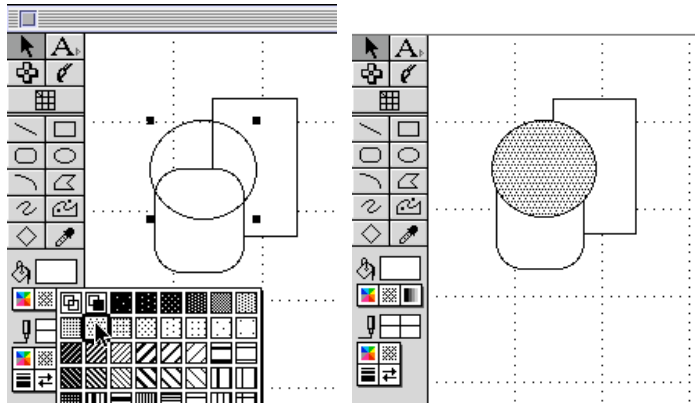
透明化され、下の図形の線が見えるようになります。

下図では、円を透明化しました。



### 1-7. 図形の塗りつぶし

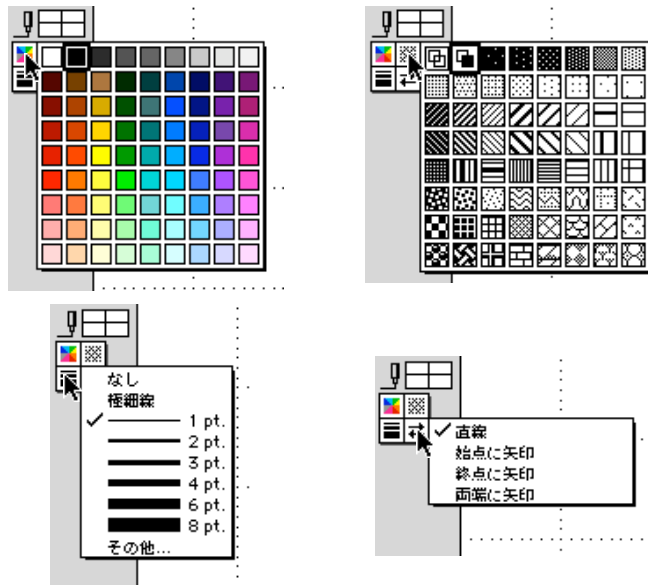
また、図形を選択し、色とパターンとグラディエーションの様々なボタンを選択してみましょう。図形を様々に塗ることができます。



色とパターンとグラディエーションの各塗りボタンをドラッグして引っぱり出すと、画面上に配置してすぐ使えるようになります。消すためには左上の消去ボックスをクリックします。

### 1-8. ラインのスタイル

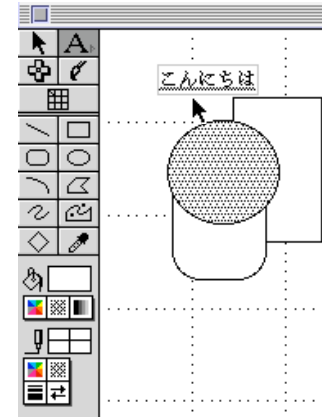
ペンキ缶マークの下の方に鉛筆マークがあります。その下の 4 つのボタンは線の色、太さ、パターン、矢印の向きを指定するものです。



8-7

### 1-9. 文字入力

ツールの「A」ボタンをクリックして、選択します。その後、ドロー画面をクリックすると、そこに文字入力ボックスが表示されます。ここには文字が入力できます。入力した文字は後から、字体、大きさ等の変更ができます。



### 1-10. 配置メニュー

メニューバーの「配置」メニューにはその他のメニューがあります。

「変形、回転、反転」 - 選択した図形に対し、これらの操作ができます。

「グループ化」 - 様々な図形を組み合わせることで一つの図を作ることができますが、できあがった図を構成している各図形をグループ化してひとまとめにまとめることができます。

「ロック」 - ある部分の変更をできないようにするためにロックという機能があります。

### 課題:

自分のマークとなる図をドロー機能を利用して書いてみよう。

大きさは 5 cm x 5 cm ぐらいにしてください。できたら xxxx.pict という名前を付けて、フロッピーディスクにファイル形式を PICT として保存します。 例

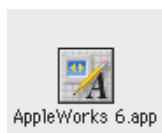


8-8

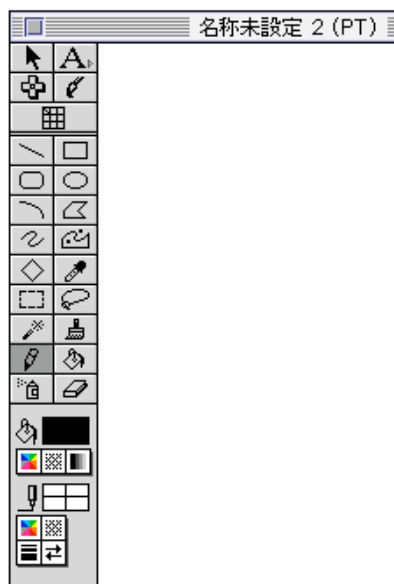
## 2. ペイント機能

### 2-1. 起動

アップルワークスを起動し、新規書類のポップアップウィンドウでペイントを選択します。アップルワークスが起動している場合は、「ファイル」メニューから「新規」を選び、ペイントを選択します。



白紙のペイント画面が現れます。標題にはペイント書類を示す(PT)が書かれています。



### 2-2. ペイントのツール

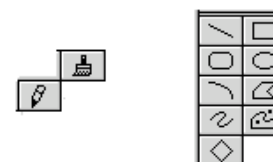
#### 2-2-1. ツールアイコン

右側にはドローと同じ様なツールが表示されています。

最初は、上図のようにツールの鉛筆マークが反転しており、カーソルも鉛筆マークになっています。この状態でマウスのドラッグによりフリーハンドのお絵かきができます。

#### 2-2-2. 作画ツール

下図左のマーク(鉛筆マーク、ブラシマーク)を選択すると、線などの作画が出来るようになります。ドローにもあった下図右のようなバレットのマークを選択する



と、直線、四角、隅の丸い四角、楕円・円、円弧、多角形、フリーハンドライン、が作画できます、

少し、色々な絵を書いてみましょう。

どうですか、ドローと異なり、一度書いた線はの上をクリックしても選択されません。

ペイントで書いたものは画面上のドットの集合として表現されるためです。

#### 2-2-3. 選択ツール

そこで、特定の絵を選択するためにツールが必要になります。それがツールボックスの中で菱形の図形の下にある右図のような破線の四角の図形とその隣の投げ縄ツールです。



破線の四角ツールはドラッグして囲んだ長方形の領域を選択するために使います。

その隣の投げ縄ツールはフリーハンドで囲った部分を選択できます。

また、投げ縄ツールの左下のマジックワンドは同じ性質の領域を自動的に選択します。



選択した部分は、ドラッグによる移動や delete キーで消去でき、カット、コピー、ペースト、ファイルメニューの「効果」のメニューが適用できます。

#### 2-2-4. 塗りつぶしツール

絵を書く道具として、ツールボックスの下のほうに鉛筆、ブラシ、スプレーがあり、塗りつぶしのペンキ缶があります。これらはドローにはないツールです。



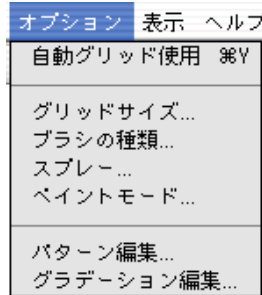
#### 2-2-5. 消しゴムツール

また、画面上で一部を消したいときは、消しゴムが用意されています。この消しゴムツールがあることがペイントの特徴になります。



### 2-3. オプションメニュー

メニューバーのオプションメニューにはグリッド、ブラシ、スプレーなどの選択項目や、パターン編集、グラデーション編集のメニューがあります。



### 2-4. 効果メニュー

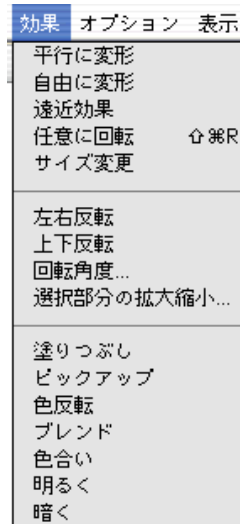
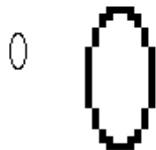
メニューバーの効果メニューには、選択した範囲を様々に加工、変形するためのツールが並んでいます。

### 2-5. ペイントの特徴

ペイントはドットの集合体として描かれるため、拡大をするとドット間隔が荒くなり、なめらかな線にならず、ぎざぎざの線になってしまいます。

長方形選択ツールで図形を選択し、効果メニュー或いは、ウィンドウの左下の拡大アイコンを用いて、選択部部分を拡大してみましょう。

下図右の楕円は左の楕円を 400x400 に拡大した図形です。左では細かい点が連なり滑らかに見えますが、右ではその点が拡大され、四角い点からなるギザギザの図形になってしまいます。



### 課題:

自分の似顔絵やロゴ画像をペイント機能を利用して書いてみよう。

大きさは 10 cm x 10 cm 以内にして下さい。

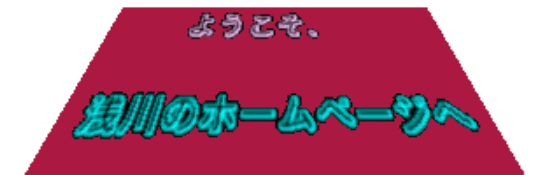
できたら xxxx.paint という名前を付けて、フロッピーディスクにファイル形式を PICT として保存します。

これらは、ホームページの素材として利用します。

似顔絵例、



ロゴ例



## 索引

グラデーション編集.....	11	起動.....	3, 9
グリッド.....	11	効果メニュー.....	12
グループ化.....	8	作画.....	4
スタイル.....	7	作画ツール.....	10
スプレー.....	11	消しゴムツール.....	11
ツール.....	4, 10	消去.....	5
ドロワー.....	3	選択ツール.....	11
ドロワー機能.....	3	前後関係.....	5
パターン編集.....	11	塗りつぶし.....	7
ブラシ.....	11	塗りつぶしツール.....	11
ペイント.....	3	透明化.....	6
ペイント機能.....	9	反転.....	8
ロック.....	8	文字入力.....	8
回転.....	8	変形.....	5